

水文部会2016年度報告

- 水文部会研究集会
 - 10月14日金曜～15日土曜
 - 秋田，雄物川流域，物部長穂資料館，強首輪中他
 - 参加者37名
- レーダー雨量計50周年シンポジウム
 - 10月18日13:30～17:30，東京大学武田ホール
 - 参加者292名 懇親会100名
- 第17回地下環境水文学に関する研究集会
 - 11月26日～27日(予定)
 - 筑波大学総合研究棟SB112(羽田野先生)
 - 参加者12名
- 水文部会 2017年3月8日(金)12:15～13:00
 - 参加者23名

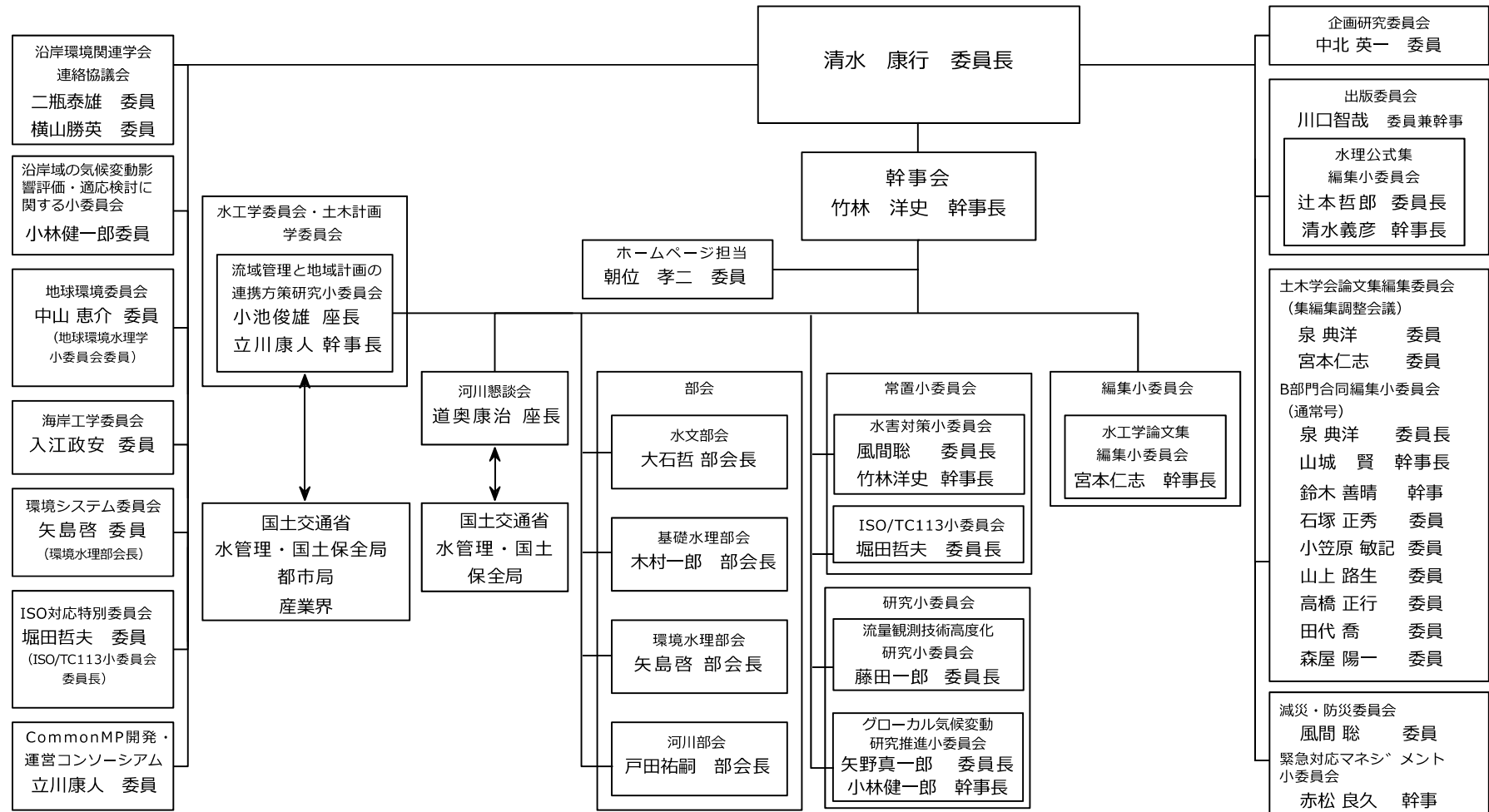
水文部会2017年度計画

- 水文部会研究集会
 - 9月29日金曜～30日土曜
 - 鹿児島, 種子島, JAXA種子島宇宙センター
- 第18回地下環境水文学に関する研究集会
 - 7月8日(土)～9日(日)(予定)
 - 和歌山県立文化会館(中川啓先生)
- 第1回水文部会
 - 2017年9月11日(月) 昼休み
 - 九州大学ウェスト2号館3階318

交流委員など

- 副部長
 - 鼎先生(東京工業大学)
- 河川部会連携委員
 - 呉先生(富山県立大学)
 - 仲吉先生(東京理科大学)
- 地球環境委員会委員
 - 佐山先生(京大)

2017-2018 水工学委員会



土木学会平成29年度全国大会(九州大学) 研究討論会「水工学分野の気候変動適応研究において社会実装 の促進に何が必要か？」

日程: H29年9月11日(月)13~15時

座長: 中北英一(京都大学防災研究所)・矢野真一郎(九大)

話題提供者:

橋本典明・九州大学 : 高潮・洪水の複合災害に向けた社会実装

山田朋人・北海道大学 : 適応策の社会実装のためのダウンスケーリング

藤見俊夫・熊本大学 : 水工学分野の適応研究における

森啓年・山口大学 : 河川堤防に対する適応策

佐藤克英河川部長・国(九州地方整備局) : 九州における社会実装

福岡県or福岡市: 気候変動関連部局と調整中 : 自治体における社会実装

主題: 地球温暖化時の降水・洪水への適応策の提案だけでなく、水循環や水環境を含めた気候変動の影響評価、適応策の提案が求められている。しかし、影響評価研究と比較して適応策研究が十分に進み活用されているとはいいがたい。また、水工学分野の社会実装については検討の重要性が指摘されてはいるが、その方法論については未だ不明瞭なままである。特に、地方自治体においては適応策実装の方法論について模索が続いている状態と言えよう。水工学委員会では適応策に関連する問題を包括的に解決すべく、グローバル気候変動研究推進小委員会を立ち上げた。昨年引き続き、小委員会メンバーを中心に水工学分野における適応策研究のあり方について議論し、特にその社会実装において必要となる考え方について明らかにしたい。

「第22回水シンポジウム2017 in おきなわ」
プログラム(案)

■ 10月31日(火) 第1日目 シンポジウム

会場：タイムスホール(約350人を想定)

【午前の部：メイン会場(タイムスホール)】

9:00 開 場

9:30 開 会(30分)

シンポ趣旨説明(2分) 司会

開会挨拶(8分) 実行委員会委員長

実行委員紹介(2分) 司会より紹介、壇上一礼

来賓挨拶(各5分) 沖縄総合事務局長、沖縄県知事、那覇市長

プログラム案内(3分) 司会

※壇上片付・準備(5分)

10:05 特別講演(50分)

竹村公太郎 様(NPO 法人日本水フォーラム代表理事・事務局長)

※壇上片付・準備(5分)

11:00 こどもたちによる発表(40分)

① 国頭村立奥小学校児童による発表

11:40 昼 休 憩

【午後の部：分科会等】

12:40

テーマ別分科会(120分)

第1分科会 担当：土木学会

会場：県庁講堂 280席

第2分科会 担当：行政

会場：沖縄タイムスホール 350席

14:40 休憩(20分)

15:00 招待講演(50分) 中北英一 様(京都大学防災研究所教授)

(別会場：全体会議打合せ)

※壇上片付・準備(5分)

15:55 全体会議(60分)

各分科会まとめとメッセージ発信

※壇上片付・準備(5分)

17:00 次回開催県挨拶(10分)

17:10 閉 会

【パネル展示】(県庁1階ロビー及びタイムスビルロビー・ギャラリー等利用)

■ 11月1日(水) 第2日目 現地見学会(首里城・倉敷ダムなど)

定員 約40人を想定

平成29年度 第62回水工学講演会 開催計画

- 日程：2018年3月5日（月）～7日（水）の3日間
- 場所：岡山大学津島キャンパス
（〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1）
<http://www.okayama-u.ac.jp/>

※上記の日程で講義室等を予約済み.

- 幹事：前野詩朗（岡大），吉田圭介（岡大）

水工学論文集編集作業について(会議予定)

開催日	会議	会場
2017年7月3日(月)	第一回幹事会・第一回委員会	土木学会AB会議室
2017年9月29日(金)	論文投稿締切	
2017年10月5日(木)	第一回編集小委員会幹事会	土木学会AB会議室
2017年10月6日(金)	第二回幹事会・ 第一回編集小委員会	土木学会AB会議室
2017年10月31日(火)	第1回査読期限	
2017年11月8日(水)	第三回幹事会・ 第二回編集小委員会(メール審議)	土木学会AB会議室
2017年11月30日(木)	修正原稿締切	
2017年12月7日(木)	第三回編集小委員会(メール審議)	
2017年12月12日(火)	第二回編集小委員会幹事会	土木学会A会議室
2017年12月20日(水)	最終原稿締切	
2018年3月5日(月)	第二回委員会@水工学講演会	岡山大学

適応WG

WG主査 矢野真一郎(九州大学)

温暖化適応の環境水理学的視点からの探求WG

【メンバー:追加・入替あり】

宮本(芝工大)・矢島(島根大)・田代(名大)・赤松(山口大)・梅田(東北大)・工藤(いであ)
・櫻井(土研)・鈴木(八千代)・鶴田(土研)・中山(神戸大)・矢野(九大)・湯浅(パシコン)
・井芹(西技)・石塚(香川大)・新谷(首都大);[部会外メンバー]白水(山口大)・上原(パシ
コン)・對馬(土研)・入江(阪大)・津田(ICHARM)・中西(土研)(計21名)

【第4回WG】

2017年5月31日(水) 15:00~17:00 土木学会西部支部会議室(福岡) 参加者:14名

- ・大阪大の入江先生に適応研究事例紹介
 - 流域モデルによる寝屋川の水質評価, 人口変動の水質への影響など
- ・プロジェクト研究の推進について協議.
 - 科研などへWGで応募する予定.
- ・WGのアウトプットとして, 水環境分野の適応策研究のレビュー論文をまとめる
 - 一年程度での完成を目指す.

【今後の予定】

- ・年度内に1~2回程度実施予定.

水害対策小委員会活動報告

2017年3月以降の活動

過去最高

- 2017年3月：2016年度第二回水害対策小委員会開催
河川災害シンポジウムの実施（参加人数：283名）
参考：2015年（東北大学） 250名
2014年（早稲田大学） 241名
当日配付資料に対して、自然災害研究協議会から15万円の補助。
- 2016年4月：2016年北海道豪雨災害調査の報告会を帯広で実施
- 2016年5月：2016年熊本地震災害調査の報告会を熊本で実施
- 2017年6月20日：2017年度第1回水害対策小委員会
災害写真データベースシステムの構築
災害調査時の保険契約の変更など

2017年度の活動予定

- 2017年7月以降：国内・海外の水害調査サポート
- 2018年3月5日：河川災害に関するシンポジウム（岡山大学）
- ・ 調査方法の統一化WG
 - ・ 消防連携WG
 - ・ 災害写真データベースシステムの構築

水害対策小委員会活動報告

2017年3月以降の活動

過去最高

2017年3月： 2016年度第二回水害対策小委員会開催
河川災害シンポジウムの実施（参加人数：283名）

参考：2015年（東北大学） 250名

2014年（早稲田大学） 241名

当日配付資料に対して、自然災害研究協議会から15万円の補助。

2016年4月： 2016年北海道豪雨災害調査の報告会を帯広で実施

2016年5月： 2016年熊本地震災害調査の報告会を熊本で実施

2017年6月20日： 2017年度第1回水害対策小委員会

災害写真データベースシステムの構築

災害調査時の保険契約の変更など

2017年度の活動予定

2017年7月以降： 国内・海外の水害調査サポート

2018年3月5日： 河川災害に関するシンポジウム（岡山大学）

- ・ 調査方法の統一化WG
- ・ 消防連携WG
- ・ 災害写真データベースシステムの構築

グローバル気候変動適応研究推進小委員会活動報告

委員長: 矢野(九州大)

活動報告:

1. H28年度第2回小委員会:

H29/3/17 九大(福岡)にて開催 参加者20名

【報告事項】・平成28年度活動実績 ・平成29年度活動計画

【協議事項】・4/28開催のWSについて

2. 「適応策研究の課題抽出のためのWS」の開催:

平成29年4月28日(金) 14:00~17:30 土木学会AB会議室 参加者25名

【次第】

1. 趣旨説明
2. 水災害・水文・水環境に分かれてのグループ・ディスカッション 90分
3. 講演: 中北先生(ポスト創生の展開などについて) 45分
4. 総合討論: GDを総括し, 水工分野の適応策研究の方向性を議論 30分
5. 終わりに(中北先生) 5分

【議論の内容】

計画論へ適応をどう組み込むか?

研究・実装ともマンパワー不足.

代表流域を設定し, 人と金を投資すべき. →継続的に議論する予定.

H29年度の活動計画:

1. 平成29年全国大会(九州大学. 9/11-13):
 - ・共通セッション9/11:「気候変動による影響への適応」 5件
 - ・研究討論会9/11:「水工学分野の気候変動適応研究において社会実装の促進に何が必要か?」(オーガナイザー:中北先生)
2. 水シンポin沖縄に合わせたイベント
10/31~11/1に那覇で開催されるのにあわせて, 10/30(月)に開催を計画中.
3. 平成30年度重点研究課題(研究助成金)への応募:
 - ・本小委員会と海岸工学委員会の適応小委員会(委員長:武若先生(筑波大))とのコラボで, 適応策研究に関する内容で申請を計画中.
4. 平成30年全国大会(北海道):
 - ・共通セッション, 研究討論会の提案
5. 幹事会, 委員会を1, 2回実施:
 - ・内規の整備を行いたい.

補足資料:WSのシナリオについて

- ✓ ファシリテータ:戸田先生(水災害)・佐山先生(水文)・矢島先生(水環境)
- ✓ グループینگ
 - ・水災害:戸田・田村・椿・音田・多田・森(啓)・森(信)・石蔵・井上・内田
 - ・水文:佐山・小林・中北・丸谷・田中・中津川・渡部・神谷・花崎・猪俣
 - ・水環境:矢島・矢野・中山・溝口・東
- ✓ 大判用紙とポストイットを用いて、意見を貼っていくスタイル。(これをメモの代わりとします)
- ✓ 最初に簡単に自己紹介してもらい、その後ファシリテータが議論を誘導してください。
議論のテーマについては、事前に参加予定者へ送付しておき、各項目について考えをまとめてきてもらうようにします。グループの特性が出るような議論をお願いします。
- ✓ 議論のテーマ:(■を重点的に議論。□は時間があれば。)
 - 水工学分野で適応研究に欠けているものは？基礎研究として不足しているものは？
 - 気候変動予測研究者に言いたいことは？(水災害・水環境・水文水資源分野からの問いかけ)
 - どういう情報を適応研究に必要としているか？(気候変動研究分野からの問いかけ)
 - 水工学分野の適応策として考えられるメニューは？
 - 適応の技術者を育てるための教育体系として必要なものは？
 - 水工学分野と他分野の適応研究での融合はどうあるべき？ など
- ✓ 休憩中(20分程度)に、ファシリテータ3名と小林幹事長、矢野の5名はGディスカッションの内容を確認し、総合討論のシナリオを議論します。提言案と活動目標案を考える。
- ✓ 総合討論では、まず各グループの議論について3分程度でまとめてファシリテータに紹介していただき、その後、矢野から特に重要な意見や提案をいくつか紹介し、それを軸に総合的に議論します。
- ✓ 最後に、小委員会として(水工学委員会への?)提言をまとめ、活動目標を設定する。
- ✓ 締めとして、中北先生に総括的なコメントを頂いて終了。

補足資料: WSの参加者とグルーピング

グループと氏名	勤務先	部会・専門
B 矢野真一郎	九州大学	環境水理
C 小林健一郎	神戸大学	水文
C 中北 英一	京都大学 防災研究所	水文
B 中山 恵介	神戸大学	環境水理
A 戸田 祐嗣:水災害F	名古屋大学	河川
A 田村浩敏	建設技術研究所	河川
B 矢島 啓:水環境F	島根大学	環境水理
C 佐山敬洋:水文F	京都大学	水文(河川)
A 椿涼太	名古屋大学	河川
A 音田慎一郎	京都大学	基礎水理
C 丸谷靖幸	岐阜大学	水文
C 田中智大	京都大学	水文
C 中津川誠	室蘭工業大学	水文
A 多田毅	防衛大学校	水文
C 渡部哲史	東京大学	水文
B 溝口敦子	名城大学	河川
A 森啓年	山口大学	河川堤防
B 東博紀	国立環境研究所	沿岸域
A 井上卓也	寒地土木研究所	基礎水理
A 内田龍彦	広島大学	基礎水理
A 森信人	京都大学防災研究所	海岸工学
A 石蔵良平	九州大学	地盤工学
C 神谷大介	琉球大学	土木計画学
C 花崎直太	国立環境研究所	水文
C 猪股広典	土研ICHARM	水文

土木学会論文集B1・B2・B3分冊合同編集小委員会報告

B部門編集小委員会委員長 泉典洋

編集小委員会のメンバー交代と英文論文集との統合について

土木学会論文集B1・B2・B3分冊合同編集小委員会は、6月29日の論文集編集小委員会をもってメンバーを次のように交代します。

平成29年度B1・B2・B3分冊合同編集小委員会委員（敬称略）

委員長 泉 典洋 北海道大学（水理） 新任
幹事長 山城 賢 九州大学（海岸）現幹事
幹事 鈴木 善晴 法政大学（水文） 新任
委員 石塚 正秀 香川大学（水文）
委員 小笠原 敏記 岩手大学（海岸） 新任
委員 山上 路生 京都大学（基礎水理）
委員 高橋 正行 日本大学（基礎水理） 新任
委員 田代 喬 名古屋大学（環境水理）
委員 森屋 陽一 五洋建設株式会社（海洋） 新任

平成28年度B1・B2・B3分冊合同編集小委員会委員（敬称略）

委員長 立川 康人 京都大学（水文）
幹事長 内田 龍彦 中央大学（基礎水理，英文兼任）
幹事 山城 賢 九州大学（海岸）
委員 石塚 正秀 香川大学（水文）
委員 内山 雄介 神戸大学（海岸，英文兼任）
委員 佐山 敬洋 京都大学（水文，英文兼任）
委員 山上 路生 京都大学（基礎水理）
委員 武田 将英 東亜建設工業（株）（海洋）
委員 田代 喬 名古屋大学（環境水理）

英文担当委員長	関根正人	早稲田大学（水理）
英文担当幹事	竹林洋史	京都大学（水理）
英文担当委員	浅沼 順	筑波大学（水文）
英文担当委員	川池健司	京都大学（水理）
英文担当委員	宮本仁志	芝浦工大（環境水理）
英文担当委員	矢野真一郎	九州大学（環境水理）
英文担当委員	水谷法美	名古屋大学（海岸・海洋）

また、5月末でB部門の英文論文集編集委員会はなくなり、6月1日から和文論文集編集委員会と英文論文集編集委員会が統合されています。

参加者（敬称略）

- 中北（京大）・小林（神戸大）・多田（防衛大学校）・風間（東北大）・小森（東北大）・渡部（東大）・田中智大（京大）・大石（神戸大）